

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標	
「えがお なかよし チャレンジ」 ○自分のよさや可能性を伸ばしていこうとする子を育てます。 ○身近な人々や自然とのふれあいを大事にしていこうとする子を育てます。 ○自分の意志で判断し、よりよく解決していこうとする子を育てます。	【知・体】 【徳・公】 【開】
教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	
自分づくりに関する力 ～なりたい自分を見つける力～	具体化した資質・能力 ○意思決定する力 ○自分らしさを発揮しようとする姿勢 ○他者を理解する態度・自己を理解する姿勢 ○身近な地域への愛着 ○主体性・積極性
中期取組目標	
○「えがお なかよし チャレンジ」の実現に向け、地域と学校の連携を図りながら全職員がチームとなり、活力と魅力にあふれた地域から信頼される学校づくりを目指します。 ・学ぶ楽しさが実感できる授業づくりを推進し、学力向上に努めます。 ・身近な人やまちとのつながりを大切に、豊かな体験を通してまちを愛する心を育てます。 ・一人ひとりが安心して自分らしさを発揮しながら学校生活に主体的に参画し、楽しい学校生活を送れるようにします。	

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
学習指導 担当 研究部	①一斉テスト(年2回)の実施や、新橋小講座などを通じた職員研修によって、児童が自ら目標に向かって粘り強く基礎基本の力を高められるようにする。 ②毎月の研究部の会議で、タブレット端末の活用について情報交換を行い、各学年に伝えることで、タブレット利用に関して、指導の統一を図る。その上で、デジタルドリルを含む、自分を取り組む課題や解決方法を選べる力を育てる。 ③学校司書や泉図書館、委員会活動等と連携し、読書に親しめる環境を作る。(ONEの会の読み聞かせ、感想文・感想画への取組、はまっ子読書週間、国語を中心とした教科での活用等)

学力向上に関わる本校の状況	今年度の目標
(1)学力向上に関わる児童の実態 ○概ね市の平均値程度の学習への意識が認められる。 ○R7年度横浜市学力・学習状況調査の結果(国語・算数)では、横浜市平均を下回る学力レベルになっている学年が多い。 ○R7年度全国学力・学習調査の結果(国語・算数・生活意識調査)では、以下の状況が見られた。 ・国語の教科において、目的に応じて話す際、伝える内容を考えている児童の割合は県の平均より5%以上高い結果だった。 ・理科では、観察や実験を通して、思考しながら楽しんで学習に向かう意識が国や県の平均より高くみられた。 ・算数では、「数と計算」「図形」「測定」共に、平均より低く、日常生活とのつながりを意識できる児童の割合は低かった。 ・タブレット端末を活用して、自分の考えや意見を分かりやすく発表していた割合は、約7割だった。 ○基礎、基本的な学習の定着に課題が見られる学年には、学力の底上げに取り組む必要がある。 ○主体的に学びに向かうとする態度を今後育成するために、児童が必要感をもって学習できるような授業改善が継続して必要である。 ○職員研修として「新橋小講座」に取り組む、子どもたち一人ひとりがめあてをも、粘り強く学習に向かう態度を育めるよう授業力向上を目指している。 ○R7年度横浜市学力・学習状況調査の結果(生活意識調査)より、「学校図書館に行くことが好きですか」という質問に対して、「好き・どちらかといえば好き」と回答する児童の割合が多い。 (2)これまでの学校の取組状況 ○デジタルドリルを活用し、理解度や個々の状況に応じて内容を選んで実施し、学習の定着を目指した。 ○一斉テストでは、年2回のテスト(漢字と計算)を行った。事前に問題を提示し、練習を行うことで、目標をもって粘り強く学習に向かえるように配慮した。 ○横浜市学習状況調査の結果を受け、各学年の学力の分析を行い、次年度の指導へ行かせるよう、引継ぎを行った。 ○年間を通して、学校司書や泉図書館、委員会活動、読み聞かせボランティアの会等と連携し、読書に親しめる環境づくりや本を学習に活かせるための取組を行った。	○一斉テストや新橋小講座などの職員研修を通して、児童が自ら目標に向かって粘り強く取り組める態度を育成する。 ○情報共有をして、タブレットを安心して効率的に活用できるようにし、児童が自分の学習課題やその解決方法を選べる力を育てる。 ○学校司書や泉図書館、委員会活動等と連携し、児童が読書に親しめる環境を作る。
目標を実現するための具体的行動プラン	上半期
○研究部の地域担当者や地域コーディネータの顔合わせを行ったり、研究部内でも情報交換を行ったりして、学年と連携を取りながら、年間を通じて地域と関わっていける計画を立てる。 ○個に応じた学習を進めるために、授業づくりなどの校内研修を計画し、教員の授業力の向上を目指していく。 ○デジタルドリルを活用して、学習状況に応じた内容に取り組むことで、基礎学力の定着を図る。 ○児童一人ひとりが自分の目標を立て、努力を重ねていけるようにするために、一斉テストでは、「自分の目標点数」を事前に設定する。その目標に向かってどのように取り組むかを児童が個人で考えられるようにしていく。また、一斉テストの結果を受けて、児童自身が意欲的に学習に向かえるようにしていく。 ○児童が安心して図書室を利用できるようにするために、年度初めに、全学年で図書室の使い方についてオリエンテーションを行う。 ○外遊びが制限される梅雨の時期に、図書クイズや低学年への読み聞かせ活動などを委員会が主体となって行い、本に親しめる機会を設ける。 ○GIGAスクール構想のもと、自ら主体的に情報を集めて、自分の考えを発信できる力を養うためにタブレットを効果的に用いた学習活動を行う。 ○児童・職員が安心してタブレット利用ができるよう、年度の初めにガイダンスをする。	○児童の実態に合わせて授業改善を行うために、横浜市学力・学習調査の結果を分析する。 ○児童が本に親しめる機会を多く設けるために、年間を通して図書ボランティア「ONEの会」による読み聞かせを行う。また、「はまっ子読書週間」では、委員会活動発信のもと、「ペア読書」等の取り組みを行う。 ○学習の中で関連読書を行うなど、学校司書や地域図書館と連携して、図書活動を充実させる。 ○GIGAスクール構想のもと、タブレット活用方法の振り返りを行い、児童の発達段階や教育的ニーズに合わせたタブレット学習になるようにする。 ○児童一人ひとりが自分の目標を立て、努力を重ねていけるようにするために、前期と同様に一斉テストでは、「自分の目標点数」を事前に設定する。その目標に向かってどのように取り組むかを児童が個人で考えられるようにしていく。また、一斉テストの結果を受けて、児童自身が意欲的に学習に向かえるようにしていく。
下半期	○児童の実態に合わせて授業改善を行うために、横浜市学力・学習調査の結果を分析する。 ○児童が本に親しめる機会を多く設けるために、年間を通して図書ボランティア「ONEの会」による読み聞かせを行う。また、「はまっ子読書週間」では、委員会活動発信のもと、「ペア読書」等の取り組みを行う。 ○学習の中で関連読書を行うなど、学校司書や地域図書館と連携して、図書活動を充実させる。 ○GIGAスクール構想のもと、タブレット活用方法の振り返りを行い、児童の発達段階や教育的ニーズに合わせたタブレット学習になるようにする。 ○児童一人ひとりが自分の目標を立て、努力を重ねていけるようにするために、前期と同様に一斉テストでは、「自分の目標点数」を事前に設定する。その目標に向かってどのように取り組むかを児童が個人で考えられるようにしていく。また、一斉テストの結果を受けて、児童自身が意欲的に学習に向かえるようにしていく。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育 人権教育 担当 総務部	①たてわり班活動や幼保小連携を中心に、子どもたちの考えを生かしながら異学年交流を工夫して実施する。②自分づくりパスポートで、自分自身を定期的に見つめ直し、自分の頑張りと自分の良さについて気付けるようにする。③社会福祉法人びぐれっととの交流を継続することにより、人権教育の充実を図る。④横浜プログラム(Y-Pアセスメント、指導プログラム)を活用して、より良い人間関係を構築する機会を設ける。
豊かな心に関わる本校の状況	今年度の目標
(1)豊かな心に関わる児童生徒の実態 ○横浜市学力・学習状況調査の生活意識調査では「自分にはよいところがあると思いませんか」の項目で8割前後の児童が肯定的な回答をしており、横浜市の平均とほぼ同等である。また、「相手の気持ちになってその人の気持ちを考えるようにしていますか」「将来の夢や目標がありますか。」の項目では、全学年で8～9割の児童が肯定的な回答をしており、特に高学年で市の平均よりも「そう思う」と答えた児童の割合が多くなっている。 ○Y-Pアセスメントでは、自分と向き合った素直に自己表現したりできる児童が多い。一方で、自分と相手の感じ方の違いを受け止められないことが課題である。困ったり、助けが必要だったりする相手に対して、関わり方をどのようにしていけばよいのかに悩み、適切な行動に移せない傾向がある。 (2)これまでの学校の取組状況 ○たてわり班活動では、年間を通して予定通りの回数を行うことができた。また、昨年度に続き全校遠足も実施することができ、全校異学年のたてわり班で参加することができた。 ○年間を通して、人権教育に取り組むことができた。具体的には、社会福祉法人びぐれっととの交流を全学年で行った。また、小中ブロックで共通の取組であると確認した「笑顔を増やす」をテーマにした活動に取り組んだ。ペア学年との集会やほかほかメッセージの交換、ペア読書、ポカポカランニングなどの活動を通して、人権意識や相手意識を高めた。 ○横浜プログラムの活用研修を行い、Y-Pアセスメントを学級把握の客観的資料とし、学年や学級の実態を把握できるようにした。その実態に合わせたプログラムを年2回は実施できるように校内での推進を図ってきた。 ○幼稚園・保育園との交流を、学年の実態にあわせて実施することができた。	○たてわり班活動やペア学年での活動を通して、異学年交流や人権週間の具体的な実践を通して、他者を理解しようとする態度を育成する。 ○道徳の時間の学習や横浜プログラムの取組、自分づくりパスポートによって自己を振り返り、理解しようとする姿勢を育む。
目標を実現するための具体的行動プラン	上半期
○安心してたてわり班活動に入ることができるように、教職員で児童理解研修を行い児童の姿を共有する場を設ける。 ○学校生活でも様々な活動を通して他者とのつながりを意識できるようにするために、ペア学年での取組を進める。 ○自分自身を見つめ、学校生活をよりよくしていこうとする態度を育てるために、定期的に自分づくりパスポートで振り返ることができるようにする。また、自分づくりパスポートの書式を検討し、充実した振り返りができるようにする。 ○学校外部の方々と関わりをもって他者理解を深めるために、職員全体で研修を行い、各学年ごとに地域の施設である社会福祉法人びぐれっとと交流をする計画を立てる。 ○子どもたちに必要な社会的スキルを育むために、Y-Pアセスメントを実施し、横浜プログラムの活用について話し合い、子どもたちの困り感に全職員で寄り添えるようにする。 ○子どもたちが主体的に取り組むことができるように、近隣の幼稚園・保育園との交流計画を立てる。	○異学年交流を深めるために、たてわり班活動での全校なかよし遠足や6年生のお別れ会を行う。また、活動内容を精選し、学年ごとの役割を明確にすることで、年度が変わっても継続的に活動に取り組めるようにする。 ○人権意識を高めて他者への理解を深めるために、ほかほかメッセージ、横浜子ども会議に関連した思いやり活動を行う。 ○道徳の授業だけでなく、日常的な生活場面において子どもたちが互いを認め合い、助け合うことができるようにするために、学年・学級の中でそのような場を積極的に設ける。 ○学校外部の方々と関わりをもって他者理解を深めるために、各学年ごとに地域の施設である社会福祉法人びぐれっとと交流をする。 ○子どもたちに必要な社会的スキルを育み、集団理解を深めていくために、Y-Pアセスメントを実施し、横浜プログラムの活用をする。上半期と同様に、全職員で子どもたちの困り感に寄り添えるよう、変容を見取ったり、複数の職員で共有したりしていく。 ○新入生が安心して入学できるように、近隣の幼稚園・保育園と1年生・5年生を中心に交流を行う。
下半期	○異学年交流を深めるために、たてわり班活動での全校なかよし遠足や6年生のお別れ会を行う。また、活動内容を精選し、学年ごとの役割を明確にすることで、年度が変わっても継続的に活動に取り組めるようにする。 ○人権意識を高めて他者への理解を深めるために、ほかほかメッセージ、横浜子ども会議に関連した思いやり活動を行う。 ○道徳の授業だけでなく、日常的な生活場面において子どもたちが互いを認め合い、助け合うことができるようにするために、学年・学級の中でそのような場を積極的に設ける。 ○学校外部の方々と関わりをもって他者理解を深めるために、各学年ごとに地域の施設である社会福祉法人びぐれっとと交流をする。 ○子どもたちに必要な社会的スキルを育み、集団理解を深めていくために、Y-Pアセスメントを実施し、横浜プログラムの活用をする。上半期と同様に、全職員で子どもたちの困り感に寄り添えるよう、変容を見取ったり、複数の職員で共有したりしていく。 ○新入生が安心して入学できるように、近隣の幼稚園・保育園と1年生・5年生を中心に交流を行う。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育 担当 指導部	①健康診断や体力・運動能力調査の分析に基づいて、年間を通して児童が体を動かせる機会を設けたり、日常の体育科授業を改善したりすることを通して、児童が体を動かすことの楽しさを感じられるようにする。②健康(生活安全・保健・給食)について子どもたちと話し合いながら年間を通して継続的に健康的な生活について意識を高め、自ら健康を保持推進しようとする姿勢を培う。③栄養士と連携しながら家庭科や特別活動、総合的な学習などで食育を実施し、食への関心を高める。

健やかな体に関わる本校の状況	今年度の目標
(1)健やかな体に関わる児童の実態 ○体力・運動能力の総合値は、横浜市の平均かややそれより高い数値となっている。 ○実施種目の中では、各学年により傾向は異なるが、市の平均を下回る項目が複数ある。令和7年度は、「権力」や「ボール投げ」「長座体前屈」で下回る学年が多かった。 ○生活実態の総合値は、横浜市の平均かやや高い数値となっている学年が多い。(平均以下は、4年男子・4年女子・3年男子のみ) ○「朝食の有無」の項目では、全学年において、「毎日食べる」の児童が市の平均を上回っている。 ○「体を動かすことが好きかと」自分からすすんで、運動やスポーツをする時間をもちたいか」の2項目は、ほとんどの学年で市平均かそれより高い数値になっていて、多くの子どもが運動に対して意欲をもっている。 ○歯科保健においては、健診結果から歯保有率は22%で例年同程度での推移となっている。歯科保健事業の歯みがきチェックではA判定が81%と前年度より改善し丁寧な歯みがき習慣の定着がみられる。 ○給食残量調査の結果は野菜類、魚類、牛乳の残量が多い。 (2)これまでの学校の取組状況 ○運動委員会が中心となつての「ほかほかランニング」、自由参加制の「なわとびチャレンジ」などに取り組んだ。 ○クラス使用のボールを配当した。 ○体育部が中心に、運動能力についてや指導方法の情報発信や助言を行い、体育科の授業改善を行ってきた。 ○新橋けんこう週間(学校保健委員会)では「新橋 健康アップ大作戦！」を全校のテーマとし、各クラスの健康課題を踏まえたけんこう目標を設定して、1年間を通して課題に向けての取組を実施した。 ○6月に歯科衛生士と連携して給食後のぶくぶくうがいと歯みがきがめんどりカードの実施、10月に歯科衛生士による歯科巡回指導を行った。 ○食育体験活動の実施 皮むき等体験活動(1年・2年・3年・個別級)、マリノス食育前講座(2年)、味覚の授業(5年)、バイキング給食(6年)	○日常的に体を動かせるような機会を設定し、体力の向上や運動習慣の定着を図りながら、児童が体力を高めるよさを感じたり、体を動かすことが好きになりできるようにする。 ○児童一人ひとりが健康な生活や食生活について具体的な実践を考えることで自身の生活習慣をふり返り、主体的に健康を保持推進しようとする態度を育成する。
目標を実現するための具体的行動プラン	上半期
○児童が安全に楽しく体を動かせるために、運動の種類や用具によって場所や時間を明確にする。(短編については、学年児童数相当の本数を生かし、授業だけでなく休み時間にも使用できるようにする。) ○天候に左右されずに、体を動かす環境をつくるため、休み時間の体育館開放を積極的に行う。全校児童に機会を保障するために、ローテーションを組んで運用する。 ○児童が体を動かすことをより好きになれるような指導の工夫や研究会での授業実践事例を取り上げて、体育部から校内実技研修やメンター・研、ミラリス提案を通じて紹介していく。 ○年間を通じた体力向上の活動になるよう、委員会を中心として計画を整理する。「なわとびチャレンジ」「ほかほかランニング」等) ○毎月の生活目標を一新し、新橋けんこう目標(生活安全・保健・給食)として一年間を4つの期間に分け、それぞれの短期目標に向けた行動習慣の定着を図り、さらにその定着を積み上げていくことにより年間目標の達成を目指す。 ○新橋けんこう目標に向けた学級での重点的な取組を「新橋けんこうチャレンジ」と位置づけ、学級の実態に応じて設定した重点目標を意識した行動習慣が定着するようにする。6月と9月に全校で共有できる機会を設け、定期的に振り返りながら、継続性のある取組にする。全校での共有の場面では保健委員会の児童が推進役として活躍できるようにする。 ○歯科衛生士と連携し、歯みがき習慣の定着と適切な歯みがき方法の指導ができるよう取り組みを行う。 ○朝食を摂ることの大切さを伝えるために、児童や保護者に周知する機会を設ける。 ○食への関心を高めるために、家庭科の学習で栄養士と連携したり、食に関する体験活動を実施したりする。 ○バランスよく栄養をとることの大切さを伝えるために、「ほかほかより」にクイズを作成し、食べ物や食品の知識を知らせる。	○児童が安全に楽しく体を動かせるために、運動の種類や用具によって場所や時間を明確にする。(短編については、学年児童数相当の本数を生かし、授業だけでなく休み時間にも使用できるようにする。) ○天候に左右されずに、体を動かす環境をつくるため、休み時間の体育館開放を積極的に行う。全校児童に機会を保障するために、ローテーションを組んで運用する。 ○児童が体を動かすことをより好きになれるような指導の工夫や研究会での授業実践事例を取り上げて、体育部から校内実技研修やメンター・研、ミラリス提案を通じて紹介していく。 ○年間を通じた体力向上の活動になるよう、委員会を中心として計画を整理する。「なわとびチャレンジ」「ほかほかランニング」等) ○毎月の生活目標を一新し、新橋けんこう目標(生活安全・保健・給食)として一年間を4つの期間に分け、それぞれの短期目標に向けた行動習慣の定着を図り、さらにその定着を積み上げていくことにより年間目標の達成を目指す。 ○新橋けんこう目標に向けた学級での重点的な取組を「新橋けんこうチャレンジ」と位置づけ、学級の実態に応じて設定した重点目標を意識した行動習慣が定着するようにする。6月と9月に全校で共有できる機会を設け、定期的に振り返りながら、継続性のある取組にする。全校での共有の場面では保健委員会の児童が推進役として活躍できるようにする。 ○歯科衛生士と連携し、歯みがき習慣の定着と適切な歯みがき方法の指導ができるよう取り組みを行う。 ○朝食を摂ることの大切さを伝えるために、児童や保護者に周知する機会を設ける。 ○食への関心を高めるために、家庭科の学習で栄養士と連携したり、食に関する体験活動を実施したりする。 ○バランスよく栄養をとることの大切さを伝えるために、「ほかほかより」にクイズを作成し、食べ物や食品の知識を知らせる。
下半期	○日常的に体を動かす動機につなげるために、体育委員会を中心とした「ほかほかランニング」の計画や、「なわとびチャレンジ」などの運動を継続的に行う。 ○運動習慣や生活意識を継続的に振り返ることができるようにするために、横浜市体力・運動能力調査の記録を体づくりに運動等、体育の授業改善に生かす。 ○新橋けんこうチャレンジを12月と3月に設定し、行動習慣の定着を振り返りながら、新橋けんこう目標(生活安全・保健・給食)の年間目標に向けて取組をレベルアップ、ブラッシュアップさせていく。3月には1年間の取組みの成果を振り返り、さらに実践を継続していく意欲に繋げる。 ○歯みがきやバランスのとれた食生活等の生活習慣の実践に向けて、歯科巡回指導(歯と口の健康づくり)を実施し、結果や歯科衛生士の所見等を保護者に周知することを通じて家庭との連携を図っていく。 ○食事の基本的なマナーや衛生面で大切なことを定着させるために、給食時間や学級活動を活用して計画的に食育の指導を進める。 ○給食週間を実施し、給食委員会が中心となって食べる事への関心や、感謝の気持ちを高める。